

研究目的(どのような問題意識で何を、どこまで明らかにしようとするかが分かるように焦点を絞り、具体的に記入してください。)
 平成14年に貴財団より助成をいただいた日章小学校が、平成15年度北海道英語教育研究大会でそれまで積み上げてきた英語活動の実践を研究発表し、北海道各地からの参加者から高い評価を頂戴した。それを受け、小学校英語活動をさらに深く学び、その優れた指導法を旭川市の小学校に広めていきたいという有志が集まり、A E E N (Asahikawa English Education Network)を設立した。当初17名の会員で発足した会も、現在では、小中学校の教師のみならず、高校・幼稚園教員、教育委員会関係者、ALT、教育大学生、一般市民の方々等50名を超える会員を擁している。また、当初旭川市の小学校の教師を対象にと考えていたものの、上川管内・留萌管内・空知管内と参加者の枠が大きく広がってきている。本研究の目的は、次の4点である。
 小学校英語活動の指導方法の実践的な研究をワークショップや授業研究会を中心に行っていく。なかでもB-SLIMという指導方法は、小学校英語活動において大変有効であるということが、前述の研究発表で高く評価されたことから、この指導方法を中核にした研究を進める。(B-SLIMは、カナダ・アルバータ州立大学 Olenka Bilash 博士が発案した第二言語教授法である。)
 会員の中に幼稚園・中学校の教員が数名ずついることから、可能な範囲で幼・小・中の連携の在り方を研究する。
 英語活動において教材開発は重要な役割を持つ。共同で開発した教材を共有化し、質の高い教材づくりを研究する。
 旭川市においては、英語活動の実施状況が必ずしも良好とは言えない。英語活動を支える地域環境の基盤づくりを目指し、英語教育に関心のある方々がオープンに参加できる「講演会」等を通して、この研究を支える土壌の広がりを求めていく。
 私たちの研究は、会員の指導力向上だけを目的とするのではなく、小学校の教育現場で英語活動の裾野が広がり、多くの先生方に実践されることにより、目的が達成されるものと考えている。

研究計画(研究目的を達成するための研究方法を具体的に記入ください。)
 ・ワークショップと授業研究会を中心にした英語活動指導方法の研究を進める。平成15年度9月にA E E Nを設立して以来、昨年度は、4回のワークショップと2度の授業研究会を実施した。今年2月には、北海道立教育研究所の支援をいただき、B-SLIMの発案者であるカナダ・アルバータ州立大学 O.Bilash 博士を迎えて「記念講演・ワークショップ」を開催することができた。
 平成15年度から、3カ年計画で上記4点の研究内容について究明し、平成17年度末には、その成果を広く市内各小学校に周知していきたいと考えている。なお、平成17年度も引き続き、今年度同様の規模でワークショップや授業研究会を開催する予定である。
 ・今年度(平成16年度)の研究計画は、下記の通りである。(*印は既に終了)
 * 第1回 ワークショップ【6/20】・会員相互の実践交流会・アクティビティー研修・教材開発研修
 * 第2回 ワークショップ【7/17】・小学校英語活動模擬授業体験講座・アクティビティー研修・英語活動研修参加報告
 * 第3回 ワークショップ【9/11】・外部講師(2名)を招いてのワークショップ(=オープンワークショップ)
 * 第4回 授業研究会(留萌ブロック)【11/2】・留萌市立礼受小学校において授業研究会
 第5回 ワークショップ【11/13】・会員相互の実践交流会・三省堂ワークショップ参加者の還流講座・ビデオによる授業研究
 第6回 授業研究会(旭川ブロック)【12/8】・旭川市立日章小学校における授業研究会(予定=オープンワークショップ)
 第7回 ワークショップ【2/19】・外国人講師を招いてのスキルアップ講座・「講演会:英語活動展望」(予定=オープンワークショップ)

従来の研究経過および成果(この研究計画についてこれまでの研究経過の内容と成果または準備状況等について記入してください。)
 設立以来ようやく1年を迎えたA E E Nであるが、現在までに、多くの成果を残すことができた。以下、4点について成果を示す。
 平成15年度に、私達の研究の中核をなす「B-SLIMを導入した英語活動の在り方」をJASTEC(全国児童英語教育学会)で研究発表し、全国の参加者から新しい英語活動の在り方として高く評価して頂いた。また、全国各地から資料要請が数多くあった。
 平成15年度に開催された「北海道英語教育研究大会」の追跡調査として、会員の中の幾つかの学校で英語活動の児童意識調査を行ったところ、他校でも日章小学校(筆者勤務校)同様常時85~90%以上の児童が、「楽しく活動ができた。」「今日の英語がよくわかった・英語を使うことができた。」「またやってみよう」と回答している。この指導方法が、児童にとって「楽しく英語を身に付ける」手立てであることが検証できた。
 英語活動の指導方法をどうしてよいかわからないと言う教師が多くいる。また、この1年で会員が3倍増になったことから、ワークショップを中核にした実践的な研究を求めている教師が多くいることも確かである。さらに、会員の所属する学校で平成16年度から英語活動を開始した学校が7校、また全学年で英語活動を開始した学校が3校あった。いずれも指導の中心にB-SLIMを位置付けていることから、私達の研究が着実に根をおろし始めていることがわかる。
 教材開発に意欲的に取り組んだ成果が、「子ども英語」(7月号=アルク出版)に日章小学校の手作り教材として紹介されている。このうちの多くは、ワークショップに参加した日章小学校の教師達がアレンジして作成したものである。教材の質・量共に充実してきている。今後とも、実践的な研究を通して、私達が目指す研究に向かって着実にアプローチしていきたいと考える。

研究上の資料等(この研究に使用する主な文献資料ならびに研究施設の名称、状態、場所、使用方法、使用許可について具体的に記入してください。)
 文献資料(Olenka Bilash Second Language Instructional Model) 使用及び理論の導入に当たっては問題はなし。教授本人の同意を得ている。
 北海道立教育研究所(北海道江別市) この研究所において、過去3年間上記Olenka Bilash博士を迎え、『カナダESL講座』を開催している。資料閲覧および担当指導主事からの指導・助言をいただく。

助成金を受けた場合の研究費の使途
 助成金の使途として、以下の5点を考えている。
 ワークショップ・外部講師を招聘することで質の高いワークショップや英語活動の全国的な傾向に関する講演会の開催が可能になる。外部講師の講師料や旅費(資料代)、またワークショップ教材費(教材開発のために)、会場費等に充当したい。
 教材バンク ・英語活動で使用する教材は、高価なものが多い。A E E Nで教材を購入・蓄積し、それを会員が自由に使用できるようにし、英語活動の質を高めるための支援をしたい。教材購入費として充当したい。
 北海道ネットワークの構築 ・既に札幌市の小学校英語教育研究団体(SASTEC)と互いのワークショップに参加し合う等の交流を開始している。今後他地区との連携も視野に入れて活動を進めていきたい。参加旅費の補助等に充当したい。
 各ブロック授業研究会 ・授業を通して英語活動の在り方を検証していく必要がある。研究した理論や考え方がどのように児童の生き生きとした姿に反映しているのかを検証していく。会場校謝礼や授業作りのための教材費等に充当したい。
 英語活動講演会 ・広く市民向けの公開講座(オープンワークショップ)を開催するための講師料等に充当したい。

研究略歴(最終学校卒業以後の研究略歴を簡明に記入してください。ただし研究発表した場合は誌名、学会名、年月を明記してください。)
 小学校国際理解教育・英語活動にかかわってのみ略歴を記載する。(2001年以降についてのみ記載)
 2001年 第2言語指導方法理論(B-SLIM)を学ぶために、カナダ・アルバータ州立大学へ短期留学(北海道教育委員会派遣)9月、日章小学校における国際理解教育の実践研究論文発表(北海道教育委員会教育課程実践成果集)11月、『国際理解教育』を基盤とした総合的な学習の時間の創造を主題とし、実践研究論文発表(北海道教育公務員弘済会論文集)
 2002年 10月、第12回生活科・総合的な学習教育研究旭川大会の会場校として、「B-SLIMをとりいれた英語活動の創造」を授業公開・研究発表した。また6月、『国際理解教育を基盤とした総合的な学習の時間の創造』を刊行(第一法規社)。更に、12月『子供が生き生きと活動する英語活動』を共著で刊行(教育出版社)。北海道教育委員会『ハローイングリッシュ』を共著で刊行
 2003年 全国児童英語教育学会《JASTEC》(6月=大阪)および北海道英語教育研究大会(9月=旭川市)で、小学校英語活動の在り方について研究発表した。
 日本英語検定協会の研究助成論文入選、2004年に英検報告書執筆